



**出席報告** 本日の出席者 31名 出席率 91.17% 欠席者 3名  
メイクアップ済み 中川君  
2753回メイクアップ なし  
2753回修正出席率 82.35% 82.35%

**ニコニコボックス** 野澤君 先週欠席しました。いよいよ西部中学校建設の募金活動が始まりました。皆様方のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。  
宮本会長 孫が生まれました。マゴマゴです？

**委員会報告** 本日はありません。

**本日の卓話** 「江戸雑談」 武隈博信 君

元々歴史は好きではなかったが、50過ぎに「歴史小説」を読んだのがきっかけになって歴史に興味を持ちました。今日は「江戸時代」についての「雑談」をしたいと思います。

江戸時代に対応する天皇は、1586年の後陽武天皇から1866年の孝明天皇（明治天皇の前）までです。関が原の合戦の後、徳川家康が江戸に入りました。その頃の江戸は多摩川と墨田川に挟まれた「入り江」の多い場所で、神田から下の方は沼地で葦が生えていました。百軒くらいの藁葺きの家があるようなところに家康は30年くらいをかけて江戸の基礎を築いたと言われています。

大名の種類は、徳川御三家 親藩大名 譜代大名 外様大名などで、300藩中の大きなものは、加賀102.5万石・尾張61.9万石・紀州55.5万石・ちなみに富山は10万石となっていました。時代劇などでは「藩」とよく言われますが、その言い方は明治以降であり、当時は「候(こう)」「家」という呼び方が一般的であったそうです。

江戸時代の時刻は、日の出と日没を基準とする不定時法であり、季節によって単位時間の長さが変化しました。日の出を「明け六つ」、日没を「暮れ六つ」として昼夜を六等分していました。六等分の一つが「一の刻」で現在の2時間になります。明けと暮れの六つから五つ・四つ、九つ・八つ・七つとなり、再び六つにもどります。九つが真昼と真夜中にあたります。お江戸日本橋七つ立ちの七つは現在で言う「午前4時」を指します。

五街道については、奥州街道・日光街道・中山道・甲州街道・東海道などです。また、江戸グルメと言えば「そば」です。江戸時代前半では上方と同じ「うどん」が主流でしたが、「上方と同じものを食べているのはおもしろくない！」という考えから江戸にそばが入ってきました。「そばのタネ」を挽いてそれに少し「うどん粉」を混ぜるとというのが江戸の人たちの「粋な食べ方」だという説もあります。寛永4年(1751年)に発刊された「そば全書」という書物によると、この頃からうどん屋に代わってそば屋と名のるようになったと考えられています。



以上